

事務 事業名	コード1	1045	育児支援事業	課	健康管理課		
	コード2	⑩	乳児救急法講習会		支援班		
				電話番号	57-3113	内線	一
政策 体系	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり	予算 科目	会計		
	施策	1	保健の充実		一般会計		
	施策の展開	4	母子保健の充実	根拠 法令	母子保健法 第9条		
	基本事業	136	育児支援事業				

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 12 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	乳幼児をもつ保護者の事故に対する意識を高め、各家庭で事故防止対策に取り組むことができるようにする。また、心肺蘇生法とAEDの使用法、誤飲時の応急手当を習得し、事故が発生したときに対処できるようにする。 【業務の流れ】 保健師が家庭内で起こる事故について説明し、その後グループごとで心肺蘇生法と誤飲時の応急処置について救急隊員のデモンストレーションをみて学ぶ。その後、一人ひとりに心肺蘇生法とAEDの使用、誤飲時の応急処置について実施してもらう。

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)
臨時職員雇用賃金(保育士) + 通勤手当 21千円 (育児支援事業費案分)
② 延べ業務時間の内訳
資料作成:10時間 会場準備:60分 講習会:3時間 後片付け:60分 アンケート集計:10時間 事業報告書作成:3時間

	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
事業費	国庫支出金	千円	23		11		
	都道府県支出金	千円					
	地方債	千円					
	その他	千円					
	一般財源	千円	5	19	10	28	
	事業費計(A)	千円	28	19	21	28	0
人件費	正規職員従事人数	人	0.01	0.01	0.01	0.01	
	延べ業務時間	時間	28	28	28	28	
	人件費計(B)	千円	106	106	106	106	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円	134	125	127	134	0

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) 9月13日と11月8日に乳幼児救急法を実施した。内容は、成人・小児の心肺蘇生法、誤飲時の応急処置。 24年度計画(24年度に計画している主な活動) 昨年と同様に実施。	ア 講習開催回数	回	1	2	2	2		
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 講習会参加者数	人	47	77	118	82		
	旭市内の乳幼児をもつ保護者。 (但し事業への参加呼びかけを実施しているのは、乳児期の子どもをもつ保護者のみ。)	ウ							
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	家庭内で事故防止の対策をとることができる。 また、心肺蘇生法とAEDの使用法、誤飲時の応急処置を習得する。	ア 講習法の内容を理解し、実践できると回答した者の割合。 ()	%	—	—	—	85.4		
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ 講習会参加者数 ()	人	47	77	118	82		
	事故や大きなけがをすることなく乳幼児期を過ごすことができる。	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
上位目的		ア 1歳6か月健診でこれまでに事故やけががあったと回答した者の数 ()	人	53	60	72	50		
		イ ()							

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
育児サークルに参加している母親を対象として救急法講習会を実施していた。対象者を拡大し、より多くの市民に救急法を習得してもらう目的で現在のようなスタイルになった。	千葉県衛生統計の乳幼児の死因で、不慮の事故は、5年前と同様、上位にあるため、乳幼児の不慮の事故による死亡を減少させるためにも、講習会は重要であると考え。また、公共施設のAED普及に伴い、講習の需要も高まっている。	・乳幼児の心肺蘇生法の実技ができてよかった。 ・AEDを実際に使用できてよかった。 ・いざというときの対処法がわかってよかった。 ・いろいろと質問できてよかった。 ・事故の対処方法に対する意識が高まった。

事務事業名	育児支援事業 乳児救急法講習会	課名	健康管理課	班名	支援班
-------	--------------------	----	-------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつか？意図することが上位目的に結びついているか？	子どもの健やかな成長のためには、事故防止の啓発や事故発生時の対処法を教育することは重要である。市の政策体系、上位目的に結びついている事業である。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	保健センターでは、乳幼児をもつ保護者と限定しているが、旭市では市民を対象とした救急法講習会も実施しているため、当事業の対象者は現状のままでよいと考える。
	③ 行政関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	心肺蘇生法とAEDの講習は、人命救助において非常に重要なものである。市民の生命を守るためには、市が直接的に行う必要がある。
	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	近隣市でも乳幼児をもつ保護者を対象とした救急法講習会を実施している。旭市では、近隣市と比較しても、同様に充実した講習内容である。また、参加者アンケートで8割以上が、いざというとき心肺蘇生法・誤飲時の手当てを実践できると回答しており、一定の成果があると評価できる。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】	次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？	開催会場のスペースの関係で、対象人数を増やすのは難しい。毎回、講習会終了後にアンケートを実施しているため、市民の要望を反映させることでより充実した講習会を開催できると考える。
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	一般市民向けの普通救急講習は実施しているが、乳幼児の保護者を対象にした講習会はない。他の育児支援事業との統廃合は、救急法講習会の所要時間が90分と長いと、困難である。また保護者が講習を受けているときの保育が必要となるため他に手段がない。
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	講習会においては、保健推進員にも協力を依頼し、経費削減に努めている。これ以上の削減は難しいと考える。
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	正規職員の業務時間は、必要最低限であり、これ以上の削減は難しい。講習会では、非常勤職員の保育士を3名雇用しているが、安全な保育のためにも人数の削減は難しい。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	本事業への参加呼びかけは、乳児健診対象者、子育て学級参加者、育児サークル参加者のみであるが、広報での公募もしており、受益機会は公平・公正であるといえる。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果	(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	成人の心肺蘇生法は、経験している保護者も多いので、乳幼児の救急法を中心に実施してもらうように、消防署の職員に依頼し、参加者にとって充実した内容の救急法講習会にしていきたい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☐ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☐ 事業統廃合・連携(関連事業) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化			(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ ①講習参加者のアンケートで、要望があった場合、消防署に報告し、講習会の内容の見直しを図る。 ② ③ ④																								
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①消防署職員の人数の確保が問題となる。必要時、増員の依頼をする。 ② ③ ④																								